

研究課題名	アジアの集中治療における肺保護換気に関する疫学研究
研究機関名	ソウルアザン病院、広島大学病院、武蔵野赤十字病院(ほか世界で合計200施設程度の参加を見込んでいるが、現在も参加施設募集中であり、列記は困難である。)
研究責任者	所属 救命救急科 氏名 岸原 悠貴
研究期間	(西暦) 2019年 11月 ～ 2020年 1月
研究の意義・目的	肺保護換気と呼ばれる人工呼吸法で、急性呼吸促迫症候群(Acute Respiratory Distress Syndrome:ARDS)の患者の死亡率が低下することが示されている。またその利点から、肺保護換気はARDS以外の病態に用いることへの関心が広がっている。一方で、肺保護換気が実施されている割合は考えられているよりも低い可能性が示されている。 今回、アジア諸国の集中治療領域において、人工呼吸を受ける患者での肺保護換気の実施率を明らかにするため、本研究が立案された。
研究の方法 (対象期間含む)	対象患者は20歳以上の侵襲的人工呼吸管理(強制換気)を受けている患者である。本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行う。 カルテから使用する内容は入院中の部門・科、年齢、身長、体重、性別、意識状態、血圧、尿量、血液検査(クレアチニン、総ビリルビン、血小板数、血液ガス分析)、人工呼吸を開始した理由、人工呼吸のモードと設定、各種薬剤の使用状況(血管収縮薬、ステロイド、筋弛緩薬、鎮痛薬、鎮静薬、抗精神病薬、気管支拡張薬)、体位、患者の生存状況である。(個人を特定可能な情報は解析に用いない) データ採取の対象日は11月15日のみであり、患者のデータのフォローは2020年1月31日まで行う。
①試料・情報の利用目的及び利用方法 (匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む) ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	①試料・情報は、本研究及び本研究のデータを用いた異なる研究以外の目的では使用しない。なお、異なる研究で利用する場合は、改めて倫理審査委員会の審査を受ける。武蔵野赤十字病院における研究対象症例の対応表は、個人情報管理者(救命救急科 岸原 悠貴)が管理を行う。個人情報管理者は外部とは独立したPCで情報を管理し、PCにパスワードを設定し、セキュリティの厳重な部屋に保管することにより、情報の漏えいに対する安全策を講じる。データを解析する際には施設および個人を特定できる情報を含まない。研究の成果を学会あるいは誌上に公表する際にも、施設および個人を特定できる形では公表しない。②データ収集項目は「研究の方法」に記載の通りである。③匿名化後のデータのみ、本研究の参加施設の研究参加者が利用する可能性がある。④救命救急科 岸原 悠貴
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急科 氏名 岸原 悠貴  TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525